

徹底した「牛ファースト」による高品質和牛生産 ～「スーパートップランナー」として高収益・高所得経営を実践～

尾形 英樹（酒田市）

1 受賞者の概要

尾形氏は、肥育牛134頭、繁殖牛27頭を飼養（平成30年）する、「繁殖・肥育一貫経営」を行っている。

飼養頭数規模は、酒田・飽海地域でトップクラスであり、肥育技術においても、地域を牽引する農業者の1人である。



2 特色ある活動

(1) 高い肥育技術によって高収益・高所得経営を実現

牛枝肉格付の品質の高さが特徴であり、上物率は県平均以上、令和元年上半期に至っては100%を達成している。中でも、霜降りの程度を表す等級が極めて高く、肥育技術の高さを表している。この結果として、個人経営でありながら「スーパートップランナー」クラスの高収益・高所得経営を実現している。

(2) 「牛ファースト」の徹底で理想的な飼養環境づくりを実現

肥育部門で優秀な成績を収めている要因の1つが、理想的な飼養環境づくりである。牛が求める快適性を追求し、環境の最適化と作業スケジュールの徹底を図ることで、常に牛がリラックスできる環境を整え、異常があれば早期に発見できるように努めている。このような常に牛目線での飼養管理を徹底することで、「牛ファースト」の和牛生産に取り組んでいる。

(3) 地元スーパー等への直接販売により和牛の地場消費を開拓

酒田・飽海地域の和牛の多くが東京へ出荷される中、「地元産和牛のおいしさを地域の方々に知ってもらいたい」との思いから、庄内地域内のスーパー等へ直接販売するルートバイヤーの支援を受けながら独自開拓し、地産地消を実践している。



庄内地域のスーパーに並ぶ尾形氏の和牛

(4) スマート農業の実践

繁殖牛の飼養管理を省力化するため、スマート農業技術である「分娩監視カメラ」を今年から導入している。これまで牛舎へ頻繁に通うことで把握していた繁殖牛の状態を、スマートフォンから自宅・外出先を問わずに「見える化」することで、省力的管理を実践している。

(5) 地域農業への貢献

自給粗飼料確保のため、WCS用稲等の作業受託を行い、粗飼料自給率の向上を実現している。また堆肥生産・販売事業を展開しており、作業受託した圃場への還元や、近隣農家への供給を通し、循環型農業・耕畜連携に取り組んでいる。

3 今後の発展方向

さらなる地場消費の拡大を目指す意向であり、そのためにも経営規模の拡大と雇用の拡充、さらには法人化を検討している。その実現に向け、経営の根幹である高品質な和牛生産に今後も注力していく方針である。